

平成29年度 社会福祉法人べっふ優ゆう 事業報告書

1. 法人の活動状況の総括

平成29年度（平成29.4.1～平成30.3.31）の法人運営は、竹の内土地に建設したグループホーム整備の一年だったかと思われまます。前期末から引き続く大分県、別府市の補助事業の業務に関連し、工事請負の入札、建築確認申請、着工、事業費の調達（2件の借入、1件の短期資金）に迫られ、また、完成前後には補助事業の精算、費用の支払いあるいはこれらの業務執行にともなう理事会を中心とした多くの意思決定に伴う審議等大変濃密な一年でもありました。

他方、就継B型、生活介護、放課後等デイサービスの主要福祉活動では、大きな事故や深刻な問題等も発生せず、堅調な運営がなされた一年でもありました。

また、次年度の新たな福祉活動の展開に向け、共同生活援助及び短期入所の新規事業指定、それに関連する多機能作業所管理者の交替、相談支援事業の所在地変更など認可手続きも完了させることが出来ました。

さて、順調に見える当法人の運営ではありますが、平成30年度は障害者総合支援法、児童福祉法に基づく福祉活動の報酬改定が始まります。

すでに詳細が明らかにされ、ほとんどのサービスで基本報酬が減額され法人の運営に大きな負の影響をもたらそうとしています。

制度における今回の動きは、今後益々明確な特徴を持った「流れ」として顕在化していくこととなることは間違いありません。残念ながら現在のところ、法人としてこの制度変化に対応していく具体的な方策を持ち合わせておりません。

次の世代に引き継いでいくための、新たな事業の「柱」を創出することが求められる所以です。

（1）事業の実施概要と成果

別冊、「2017年度（平成29年度）べっふ優ゆう実績報告」を参照。

①国や行政、地域社会への働きかけ

- ・地域への働きかけは、月2回の朝市、きずなコンサートを継続させることが出来ました。朝市はすっかり近隣住民に溶け込み、安価で新鮮な野菜が喜ばれています。提供の農家の高齢化や地域の再開発計画により継続のための工夫が求められている。
- ・福祉の地域づくりでは、市の自立支援協議会、支援学校との連携、福祉フォーラムへの参加を通して地域の福祉問題や親亡き後の問題の解決のための取組みを行った。
- ・きょうされん大分支部への積極的な関わり（職員2名、仲間2名）をもち、他の事業所との連携を深めた。

②事故防止の取組み

- ・3件の転倒事故発生を踏まえ、「安全な支援の手引き」を作成。

- ・送迎等車両運転での事故防止、発生時の対応等マニュアルの周知徹底。
- ・不十分な活動に終わったが、ヒヤリハットの担当者を設け、事例を受けての話し合いを行った。

③職員の専門性及び資質の向上

- ・介護初任者研修へ職員4名派遣。
- ・所内研修の継続実施。
- ・定例の会議体、企画、チーフ、職員、班各会議、を整備し、着実な実施による問題課題の共有化を図り、課題推進につなげてきた。
- ・年2回の職員面談の実施で問題意識のすり合わせを行ってきた。

④作業や活動を通しての仲間支援

- ・朝の会、帰りの会の定着化や今日の作業内容のボード表示（可視化）により見通しの持てる支援を行ってきた。
- ・ひとり一人の状態に合わせた支援に取り組み、利用日数が増えるという効果も出てきた。（紙漉）
- ・仲間同士が理解し合い、協力し合う集団づくりにつながる支援はこれからといった段階。
「なかまの会」の運営サポートは役員へ向けてのものに終始した。今後、職員集団としての一体的な関わりが求められるところ。

⑤生産性・売上の向上、工賃アップ

- ・生活に必要な収入の確保（工賃5万円、総額月11万円）の意味、実現への課題について、販売促進会議、職員会議、班会議で展開してきた。
- ・工賃向上三ヵ年計画や就労支援事業の年度計画に落とし込む必要がある。

⑥民主的な職場づくり

- ・相互の理解を前提とした、意見交換のできる、風通しの良い職場づくりや全員で方針決定し、決定には全員で責任を持つ職場づくりは、あらゆる会議体や面談の場面で繰り返し発信している。

(2) 事業収支及び財産の状況（一般会計）

①資金収支計算（H29.4.1～H30.3.31）

千円

	決算	補正予算 29.11	差異
事業活動収入	90,399	89,581	818
事業活動支出	86,704	87,012	△308
事業活動資金収支差額	3,695	2,569	1,126
施設整備等寄附金収入	2,366	2,316	50
施設整備等資金収支差額	38,888	△6,241	45,129
予備費	0	1,000	△1,000
資金収支差額	42,025	△4,672	46,697

②資産・負債比較（H30.3.31）

千円

	当期 H30.3	前期 H29.3	増減
流動資産	79,847	36,587	43,260
固定資産	114,643	64,259	50,384
資産合計	194,490	100,846	93,644
流動負債	6,874	2,279	4,595
固定負債	38,385	0	38,385
負債合計	45,259	2,279	42,980
純資産	149,231	98,566	50,665
負債、純資産合計	194,490	100,846	93,644

(3) 今後取り組むべき課題

- ① 優ゆうホーム竹の内の運営安定化とヘルパーステーション起業の検討
- ② 国や行政、地域社会への働きかけ
- ③ 事故防止の取組み
- ④ 職員の専門性及び資質向上
- ⑤ 作業や活動を通しての仲間支援
- ⑥ 生産性・売上の向上、工賃アップ

2. 事業別の活動概要

(1) 実施事業の種類及び利用実績等

①就労継続支援B型		事業所番号	4410200069		
平成26年10月24日指定		定員	20名	契約数	31名
開所日数	264日			期首契約数	31名
延べ利用日数	5,677人日(5,641)	日平均利用数	21.5人/日		
年給付費	41,479,415円	平均日給付	7,306円(30予6,575円)		
備考	開設 平成19.1.1(単独指定として)				

②生活介護		事業所番号	4410200069		
平成26年10月24日指定		定員	6名	契約数	11名
開所日数	238日			期首契約数	12名
延べ利用日数	1,242人日(1,179)	日平均利用数	5.2人/日		
年給付費	9,573,180円	平均日給付	7,708円(30予7,828円)		
備考	開設 平成22.7.1(多機能の指定事業所として)				

③放課後等デイサービス		事業所番号	4450200144		
平成26年10月23日指定		定員	10名	契約数	17名
開所日数	242日			期首契約数	17名
延べ利用日数	2,083人日(2,260)	日平均利用数	8.6人/日		
年給付費	21,018,628円	平均日給付	10,090円(30予8,716円)		
備考	開設 平成25.1.1				

④相談支援		
地域移行、地域定着相談支援		
平成26年10月24日県指定	事業所番号	4430200628
特定相談支援（障害者のサービス利用、更新等）		
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4430200628
障害児相談支援		
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4470200181

(2) 就労継続支援B型（クッキー）

[就労支援事業]

収入目標 950 万円に対し約 978 万円の実績で目標は達成できた。しかし大分県に提出の「工賃向上3か年計画」からは大きく下回っていて（ここ3~4年横ばい）、生産能力、品質、販売力、販路開拓、安定収支、工賃水準アップなど様々な課題を積み残している。

このような状況の中で当期では、生産額、販売額、廃棄回収の情報をデータ化し商品の動向を把握することを重点に活動の定着化を図ってきた。今後取組課題の整理、実行につなげていきたい。

[仲間支援での継続的な取組みテーマ]

- ①なかまが主体的に取組み、自分たちだけで生産できるようになる。
- ②なかまの特性や思いを理解した上で合理的配慮に努める。
- ③なかま同士の関係づくり。
- ④なかまの楽しみ、社会経験が出来る機会を設ける。

(3) 就労継続支援B型、生活介護（紙漉き）

[年度のスローガン] 『仲間たちが主体的に働き、活動できる支援』

[就労支援事業]

紙製品、印刷（名刺）、物販、メール便、販売・配達それぞれの事業でほぼ目標をクリア、又はあと一步の達成状況で全体としてはほぼ目標に到達した。

苦戦の手すき紙事業では、販路や新しいニーズの探索を継続しているが主力商品の開発までには至っていない。

[仲間支援での取組みテーマ]

- ①仲間が主体的に働き、活動できるような支援
 - ・作業の細分化により、動作に制限のある仲間が参加できる作業が増え、他の仲間との連携作業にもつながった。
 - ・手漉き紙の草木染で、新たな作業が生まれ、仲間の参加機会を増やすことが可能となった。
 - ・朝の会、帰りの会の進行役の補助を他の仲間が行うようになってきた。
- ②生活介護の活動の充実
 - ・楽しい雰囲気づくりを心掛けることを通して、集団で居ることの苦手な仲間も少しずつ他の仲間とともに過ごせるようになってきた。

(4) 放課後等デイサービスなかま

[移転2年目の運営]

- ・前年度と同規模の利用児童数で、「遊び」から成長発達に必要な学びの機会へ、その環境づくりをと願っていたが、9月よりグループホームの建設でグラウンドがなくなり、屋内も含め限られた場所での活動に工夫が必要となった。

[取組の方針の評価]

- ①利用児童と家族の生活をサポートする⇒児童も家族も安心して利用してほしい。
 - ・額を柱にぶつける出来事があり応急処置も効いたのか児童に大事はなかった。その後、安全対策として柱にクッションを施すこととした。
- ②さまざまな活動を取り入れ、ひとり一人の発達を支援する⇒のびのびと過ごしながら、さまざまな経験を積み、ゆっくりと成長してほしい。
 - ・普段は時間が短いため計画は難しいが、夏休みなどの期間では、映画、カラオケ、河川プール、公園、牧場、志高湖など施設外での活動体験、また屋内でも焼き芋や流しそーめん、映画鑑賞など一人でも多くの児童が参加しやすい機会を提供した。
- ③集団を意識できる活動を援助する⇒なかまと関わりながら、互いに育ちあってほしい。
 - ・集団での遊びでは公平なルールを分かりあう手伝いを行った。
 - ・相手を認め、祝う、感謝する。…誕生会、クリスマス会（高等部の利用児童が企画運営）
 - ・教会の児童館の児童との交流を深める。…うまく参加できない児童もいてこれからの課題となっている。

(5) ベっぷ優ゆう相談支援センター

- ・今年度の利用者は、前期と同規模の77名（前年76名）であった。
- ・児童の新規申し込みが数件あったが、現状で手いっぱいのため他の相談支援事業所を紹介しお断りした。
- ・計画相談（障害児相談も含む）をもっぱら実施している。面談、利用計画、担当者会議等制度で決められたスケジュールを守り、請求要件の不備がないように留意して実施している。
- ・24時間対応が必要な精神障害の利用者を主とした一般相談の実績はないが、計画相談の利用者から頻繁に電話を受ける。事故につながらないようできる限り丁寧に対応を心掛けている。
- ・このところ、移動支援による外出やホーム開設を控え短期入所のサービス受給を希望するケースが増えている。

(6) 苦情、事故

- ・苦情受付 なし
- ・事故報告 なし

3. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

第1回理事会 平成29.6.4 5名出席

- ・H28年度事業報告について
- ・H28年度決算及び監査報告について
- ・施設整備計画の現況及び短期資金借入について
- ・定款細則の制定について
- ・理事長専決事項報告について
- ・その他（5/1組織機構について、社会福祉充実残額について、評議員会の開催について、次回理事会の開催について）

第2回理事会 平成29.6.4 6名出席

- ・理事長の選出について

第3回理事会（臨時） 平成29.11.19 6名出席

- ・職務執行状況の報告
- ・H29年度上半期の収支実績報告及び補正予算について
- ・グループホーム事業に関連する備品、EV設置費用の借入について
- ・前記議題の関連議案、入浴装置及び天井走行リフト3基の発注及び契約について
- ・諸規定の変更について（定款細則、経理規程、苦情解決に関する規程）
- ・理事長専決事項の報告について
- ・評議員辞任による後任評議員の推薦及び評議員選任解任委員会開催について
- ・その他（次回の理事会及び評議員会の日程について）

第4回理事会 平成30.3.18 6名出席

- ・業務執行状況報告について
- ・平成30年度事業計画について
- ・平成30年度予算について
- ・グループホーム等施設整備事業における最終費用と支払資金の確保について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・変形労働時間制の採用に伴う就業規則の改定について
- ・その他（次回理事会及び評議員会の日程）

(2) 評議員会

第1回評議員会 平成29.6.4 6名出席

- ・H29年度第1回理事会の審議について
- ・施設整備計画の現況及び短期資金借入について
- ・定款細則の制定について
- ・役員を選任について
- ・その他（5/1組織機構について、社会福祉充実残額について、次回の開催について）

第2回評議員会 平成 29. 6. 25 5名出席

- ・ H28 年度事業報告について
- ・ H28 年度決算及び監査報告について
- ・ 理事長専決事項報告について
- ・ その他（前回の議案再確認、理事会の議決事項共有、その他意見交換）

第3回評議員会 平成 29. 11. 25

決議の省略による手続きで以下の議案が承認された。

- ・ H29 年度上半期の収支実績報告及び補正予算について
- ・ グループホーム事業に関連する備品、EV 設置費用の借入について
- ・ 諸規定の変更について（定款細則、経理規程、苦情解決に関する規程）

第4回評議員会 平成 30. 3. 18 7名出席

- ・ 業務執行状況報告について
- ・ 平成 30 年度事業計画について
- ・ 平成 30 年度予算について
- ・ グループホーム等施設整備事業における最終費用と支払資金の確保について
- ・ 理事長専決事項の報告について
- ・ 変形労働時間制の採用に伴う就業規則の改定について
- ・ その他（次回評議員会の日程）

(3) 評議員選任・解任委員会

第1回評議員選任・解任委員会 平成 29. 11. 19 3名出席

- ・ 1名欠員に伴う後任評議員の選出について

(4) 役員等の異動等

- ・ 欠員評議員の選任

辞任届のあった栗木評議員の後任豊田晴子氏を選任した。

4. 職員研修の状況

研修名称・テーマ等（主催者）		日時	参加者
(1) 事業所内研修			
1	多機能事業所職員研修	4月より毎月第一金曜 計 11 回	輪番による支援テーマ提起、協議 4月年間テーマの全体協議 9月外部講師 大星三千代
2	放課後等デイ職員研修	6月より毎月	外部講師による虐待研修、救急救命の講座に参加の後 前年度と同様 特定利用児童をテーマとしてその特徴など全員で考え、今後の支援につなげる方法を検討

(2) 事業所外研修			
1	発達保障講座 (全障研大分支部)	平成29.6.18	尾添、北野
2	障害福祉サービス経営セミナー (福祉医療機構、大阪会場)	平成29.8.25	永松
3	障がい者の働く場 パワーアップ フォーラム ヤマト福祉財団、全Aネット (福岡)	平成29.9.1-2	大津
4	きょうされん安居楽業ゼミナール (岡山会場)	平成29.10.27-28	齋藤
5	大分県子ども・若者支援地域協議会 平成29年度中央後援会 (大分 青少年自立支援センター)	平成30.1.19	久保
6	ピアレントトレーニング (東部圏域児童発達支援ネットワ ーク)	平成30.2.3	高石、池本
7	きょうされん九州ブロック大会 (鹿児島)	平成30.3.10-11	大海 (レポーター)
(3) 総合支援法等制度関連研修			
1	大分県：サービス管理責任者研修 (生活介護)	平成30.2	永松
2	大分県：サービス管理責任者研修 (共同生活援助)	平成30.2	出田
3	大分県：強度行動障害支援者養成研修	平成29.12.12-13 平成30.2.16-20	杉山
(4) 介護職実務関連研修 (グループホーム運営対応)			
1	介護職員初任者研修	平成29.8-29.10	久保、大津

5. 借入金

- (1) 独立行政法人福祉医療機構 金額¥30,000,000 実行 H29.8.30 ¥25,000,000 及び H29.11.15 ¥5,000,000 (計) ¥30,000,000 償還 20年 利率 0.55%
期末元本残高¥30,000,000 (5月より償還)
- (2) 株式会社日本政策金融公庫 金額¥12,000,000 実行 H29.12.28
償還 7年 利率 0.85% 期末元本残高¥11,745,000
- (3) 大分みらい信用金庫 (短期借入：手形貸付) 金額¥20,000,000 実行 H29.12.15
償還 H30.4.2 利率 2.0% 返済 H30.3.30 (県補助金により返済)
期末元本残高¥0

6. 補助金

- (1) 施設・設備整備関係
 - ・大分県グループホーム施設整備補助事業
*H30.3.30 補助金交付 ¥39,990,000 (事業の精算ではなく前払として全額)

- ・別府市社会福祉法人施設整備補助金交付¥6,665,000 は、H30.4.4（決算整理では「未収補助金」を計上。）

(2) その他の補助金

- ・大分県共同募金会 ¥50,200 (H30.1.16 受領)

7. 登記事項

- ・平成 29.6.27 資産総額の変更（平成 29 年 3 月 31 日現在）
- ・平成 29.8.10 抵当権設定登記 独立行政法人福祉医療機構より借入の為グループホームの底地 2 筆（竹ノ内 2115-23、2136-4）
- ・平成 29.11.28 理事長登記（更生）平成 29.6.4 評議員会での決定が無効と判断されたため。
- ・平成 30.3.13 家屋表題部 家屋番号 2115 番 23 木造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建 1 階 237.08㎡ 2 階 237.08㎡

8. 監査

(1) 法人監事による監査

- ・平成 30.5.21 事業報告書、決算、現金出納帳等現金扱いの経理状況

(2) 大分県及び別府市等関係行政による監査

該当なし